

活動報告書

報告者氏名：藤井 契 所属：大分県立竹田支援学校 記録日：平成 24 年 6 月 10 日～
平成 25 年 2 月 15 日

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年
高等部 2 年
- ・ 障害名
自閉症など
- ・ 障害と困難の内容
A 児 聴覚過敏があり、教室の隅で耳ふさぎをしていることが多い。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい
耳ふさぎは見られるが、イヤーマフで対応が出来ている。余暇の活動として iPad が使えないか動画やパズルなどを試してみたが、あまり反応が良くなかった。
- ・ 実施期間
自立活動
(平成 24 年 10 月～平成 25 年 2 月)
- ・ 実施者
太田 貴浩
- ・ 実施者と対象児の関係
担任

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

組み立てやペグ刺しなどの自立課題を1対1で行うことが多く、その後の余暇の時間は一人で教室の隅に座ったり、立ったりしていることが多い。

その際、鼻歌（たぶんクラシック）を歌っていることが多かった。

・活動の具体的内容

担任がiPadでクラシックを検索して聴ける状態にしたiPad渡す。

・対象児（群）の事後の変化

イヤーマフをした状態で、耳ふさぎをすることが多かった生徒だが、自分の好きな音楽を、場所を選らばずに聴けることもあり、教室の隅で聞く姿が多くなった。その際でもイヤーマフはしているが、耳ふさぎはなくなった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

良く聴き取れなかった鼻歌がクラシック系であることがわかり、音が嫌いではないことに気がつくことができた。好きな音楽であれば、余暇の時間を楽しむことができている。

・エビデンス（具体的数値など）

これまで、自らiPadを触ることがなかったが、クラシックを聴きたい時は担任にiPadを持って行ってお願いする姿が見られるようになった。

・その他エピソード（画像などを含めて）

教室にあるiPadは1台なので、これまでは一人が独占する状態が続いていた。しかし、余暇の活用に使うことが多くなったので、「貸して」「貸さない」などのコミュニケーションも見られるようになった。

「順番に見ようね」とルールを決めて待つ姿も見られた。

